

大宮住吉神社

正面は大宮住吉神社の鳥居/手前は調査隊の車









郷社大宮住吉神社とある



当社の神職は勝呂氏とある

大宮住吉神社

所在地 坂戸市大字塚越

社伝によると当社は、天徳三年（九五九年）山田長慶という人が長門国一の宮住吉神社の御分霊を勧請したのに始まる。その後、康平年間に源義家が奥州平定の途次、反徒鎮定の祈願をし陣鉦を献じたといわれている。文治三年（一一八七年）には、源頼朝によって北武蔵十二郡の総社に指定され、当社の神職である勝呂氏は、その触れ頭を命ぜられている。

その後、永享元年（一四二九年）には関東管領足利持氏によって社殿が再営され、慶長七年（一六〇二年）には徳川家康から勅願所を命ぜられお墨付きを賜わり、以後、代々の將軍の礼遇を受けた。

なお、この社には県の無形民俗文化財の指定を受けている大宮住吉神楽が奉納されるがこれは江戸の里神楽の系統を伝承しているもので、神話を題材にした十二曲のほか、十曲の座外の曲目が伝えられている。

例祭は、二月二十三日、四月三日、十一月二十三日の三回で、この日は太々神楽を奉納する。

昭和五十六年三月

坂戸市



おおもみやすみよしから
大宮住吉神楽 埼玉県指定無形民俗文化財

ほ
 豊年を
 願うおどりの
 住吉神楽



坂戸市文化かるた

史がある神社です。
 この神社に伝わる大宮住吉神楽は、神話を題材にしており、今でも古い様式をよく残した神楽だと言われます。地元の人達によって保存会が組織され、毎年、神社のお祭りに神楽が舞われます。

大宮住吉神社は古くから北武蔵十二郡（入間・高麗・比企・横見・大里・幡羅・榛沢・男衾・賀美・那珂・児玉・秩父）の総社の大宮司で、触頭を務めました。触頭とは、府中六所宮（現在の大国魂神社）の例祭参集を各神社に伝えることが任務でした。毎年二月の大祭には各郡の神職が集まって、祭事に参加しました。記録によると大宮住吉神社の神職は、南北朝時代から代々勝呂家が大宮司として勤めてきました。

大宮住吉神楽の始まりは、神社の二月の大祭に大宮司と集まった神職が、古事記、日本書紀、古語拾遺集などの研究を行い、神楽を組織して神様に奉ったことからだとされています。数々の神話を題材にした十二座の神楽と、十座の座外神楽が創作されました。当初は神職により神楽が奉納されていましたが、明治以降、氏子の男子の有志によって引き継がれてきました。現在は神社の折年祭（二月二三日）、例祭（四月三日）、新嘗祭（十一月二三日）に神楽は奉納され、「大宮住吉神楽保存会」を組織して神楽の保存・継承に努力しています。

平成十九年三月

坂戸市教育委員会



倉稲魂命種蒔の座



八股遠呂智退治の座



六合堅固（翁）の座







社務所なのか、変わった形の懸魚





拝殿と本殿(奥)



拝殿と本殿(右手)









屋根取り合い部



こちらにも鳥居



手前が本殿



屋根取り合い部



遠方は神楽殿



拝殿



拝殿正面







神楽殿







神楽殿から拝殿を見る



神楽殿



収蔵庫か





例によって廃材(再利用材)置き場がある



石造物





大宮住吉神社の手前にある弁天池











弁天社







